【日本文学科　国語基礎学力型】

〔一〕

問１	1	2	3	4
	明快	だっしゅ	才覚	占
	5	6	7	8
	がかい	偏在	双方	隔
問２	4			
問３	2			
問４	自壊作用			
問５	5			
問６	3			
問７	それは時代			
問８	2			

問９	現代社会はグローバル化社会と言われて久しい。日本はアジアにおける代表的な先進国としての地位を維持していくために、英語をはじめとする外国語の教育を拡充していくことが課題視されてきた。一方で、母国語である日本語は、インターネットやＳＮＳを介したコミュニケーションの日常化と呼応して、若者の言葉を中心に目まぐるしく変化している。こうした現状において、伝統的な日本語の学習、すなわち「国語」を学ぶことの意味は薄れてきていると考える者も多いと思われる。 たしかに、日常生活においてほとんど使うことのない難解な熟語を覚えたり、就職後の社会生活において実用的とは思われない、古文や漢文の学習を行ったりすることは、決して有益とは言えない時間に感じられるかもしれない。しかし、国語を学ぶことの意味は、表面的な損得勘定では捉えられない、自己の人生を長期的に展望する視点によって見出されるものである。 たとえば、同級生と会話したり、ＳＮＳなどに掲載されている文章を読んだりする中で用いられる現代的な日本語しか使うことのできない私たちの世代は、過去の偉人たちが遺してきた思想や人生訓を読む際に多大な苦労を要するだろう。将来、社会人となって、人生の岐路に突き当たり、様々な書籍を参考にしようとする際にも、自分が理解できる範囲内の書籍しか扱うことができない。言葉を知らない、理解できないということは、必然的に自分自身の視野や世界観を狭めてしまうことにつながってしまうのである。 日本人は、母国語である日本語を用いて歴史を紡ぎ、それぞれの時代を生き抜くための思索を重ねてきた。それらの遺産を読み解き、自己の人生の助けとする手立てを得るためには、国語の学習が最も近道となるのである。自分自身の確固とした思想や人生観を構築するための手立てとして、国語の学習はなくてはならないものである。（773 字）

〔二〕

問 1	君は女〜ひ給へ
問 2	合戦
問 3	戦をとむべし
問 4	3
問 5	王　から　后　へ
問 6	5
問 7	3
問 8	方丈記・保元物語